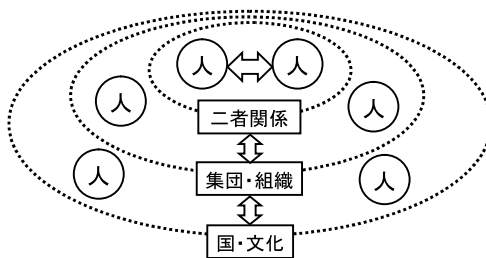


社会心理学

社会心理学とは

- 定義の難しさ～科学性, 実証性
- 大まかには・・・
 - 人の心や行動と, 社会との相互作用について考える学問
 - 他の心理学と同様, データを重視
 - “状況の力”への関心が強い



1. 社会心理学を勉強するにあたり, まず, 社会心理学とはどのような学問であるかについて考えてみましょう。実はそれを定義することは難しく, これまで様々な定義が提案されています。
2. たとえば多くの心理学者は, 社会心理学は科学の一分野ととらえていますが, 社会心理学は科学ではないと主張する学者もいます。
3. また実証性についても意見がわかれます。他の心理学領域と同じように, 社会心理学ではデータを重視します。多くの研究では, データを統計的に分析することで理論を作成したり, その理論を検証しています。ただその一方で, データを分析するのではなく, ただ現象を観察し, 記述するのが社会心理学のあり方なのだと主張する立場の学者もいます。

1. What is social psychology? Naturally, there are many definitions of this academic discipline.
2. While most psychologists regard social psychology as part of natural sciences, some insist that social psychology cannot be classified as such.
3. One reason for such dispute is the fact that there are arguments over the use of empirical evidence. Social psychologists think that empirical evidence is an important part of research investigation. A theory is constructed and tested with the use of statistical data analysis that is collected through methods that include observation in natural settings, interviews and survey questionnaires. At the same time some researchers insist that such analysis is unnecessary and that observation-based description of social phenomena is satisfactory for the purposes of social

4. このように社会心理学がどのような学問かを定義するのは難しいのですが、大まかには、「人の心や行動と社会との相互作用について考える学問」であると言えます。
 5. 図を見てください。人間関係の中で、一番小さい単位は一对一の関係になります。これを二者関係と呼びます。皆さんの日常生活の中では、親子や友人、恋人との関係がこれに相当します。そうした小さな人間関係の中でも心や行動はお互いに影響を与えるというのは、皆さんも実感する所でしょう。
 6. 人間関係が三人以上になると、集団や組織といった呼び方になります。二者関係と同じように、集団メンバーの意見や雰囲気は個人の意見や行動は左右されます。
 7. さらに大きな集団になると、国や文化といった単位になります。国の様子は国を構成する人々によって決まり、人々の行動は国によって影響を受けます。
 8. このように人間関係にはさまざまなレベル・単位がありますが、集団、組織、国、文化といった単位であらわされる“社会”と個人との相互作用について研究するのが、社会心理学の仕事になります。言い換えると、社会という状況が持つ力への関心が強いのが特徴です。
 9. 状況の力にはどのようなものがあるか、具体的な例を次のスライドで見ていきましょう。
- psychology research.
4. It is difficult to precisely define social psychology. Broadly speaking, social psychology is an academic field that “considers interaction between the mind-set and behavior of an individual (or a group of individuals) and society.”
 5. Let us look at the figure in this slide. The smallest unit of human relationships is “dyad.” This is the primary or the first type of such units. Parent-child relationships, friendships between two individuals, and romantic partnerships are main examples of dyads. In these types of relationships people influence each other’s opinions and behaviors.
 6. The second type of human relationship units are groups and organizations. These include more than three people. As in a dyad situation, members influence each other’s opinions and behavior.
 7. The third type of human relationship units are nation states and national and regional cultures that are based on a combination of common racial, ethnic and linguistic identities. These relationships display collective characteristics of their members.
 8. Human relationships can be divided into several levels and units. Social psychology focuses on the interactions between these units of social groups and individuals. In other words, social psychologists have an interest on situational power that social groups possess.
 9. In the next slide, we will consider some examples of situational power.

日本語解説

文1 「するにあたり」

「・・・する際^{さい}」、「・・・するとき^{とき}」「・・・することになったので^{なつたので}」と同様に使います。

例：外国語^{がいこくご}を勉強^{べんきょう}するにあたり、まずは辞書^{じしょ}が必要^{ひつよう}だ。

ここでお話^{はな}しするにあたり、現状^{げんじょう}をあらためて調べてみました。

文4 「大まかには」

細かいことは言^いわないことで、ものごとのだいたいの概要^{がいよう}を伝^{つた}えるときなどに使います。「おおよそ」「おおむね」「おおざっぱに言^いうと・・・」なども同様です。

例：大まかな計画^{けいかく}を書^かいておきました。

文5 「単位」

量^{りょう}などを表^{あらわ}すときに、比較^{ひかく}の基準^{きじゆん}となる量^{りょう}を決^きめて、その量^{りょう}をもとにして表現^{ひようげん}するものも小さいまとまりをいいます。たとえば、長さ^{なが}はメートルを単位^{たんい}にして表^{あら}わすことが一般的^{いつぱんてき}です。

「クラス単位^{たんい}で行動^{こうどう}する」のような使い方では、たくさんあるクラスのうち、それぞれのクラスを1つのまとまりとして同じ行動^{こうどう}をするという意味^{いみ}になります。この文^{ぶん}では、大きな集団^{おほしゅうだん}でも細かく見ていくと「1対1^{たい}」という2人^{ふたり}のもっとも小さい人間関係^{にんげんかんけい}に分けることができ、これを基本的^{きほんてき}なまとまり（単位^{たんい}）としてみていくという意味^{いみ}になります。

大学^{だいがく}などでは、授業^{じゅぎょう}ごとに一定^{いってい}の学習時間数^{がくしゅうじかんすう}を基準^{きじゆん}として数え、卒業^{そつぎょう}に必要な履修科目数^{ひつようりしゅうかもくすう}などを認定^{にんてい}します。

例：日本語^{にほんご}の必修単位^{ひつしゅうたんい}は12単位^{たんい}だ。

文5 「実感するところでしょう」

「ところ」は、具体的^{ぐたいてき}な場所^{ばしょ}など空間的^{くうかんてき}な範囲^{はんい}を示^{しめ}す使い方^{つかいかた}のほか、時間^{じかん}や抽象^{ちゅうしょう}的なもの^{とぎ}を示^{しめ}す場合^{ばあい}もあります。「おいそがしいところ、すみません」は「あなたがおいそがしい時^{とき}に（じゃまをして）すみません」の意味^{いみ}になりますし、「きみの言^いいたいところは、そこだったのか」は「こと」や「点^{てん}」に置きかえられます。

例：今^{いま}はそれどころじゃない

そんなことは私^{わたし}の知^しるところではない

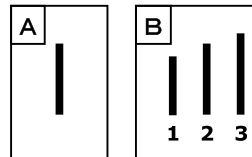
文6 「左右される」

「左右^{さゆう}する」は「思^{おも}うまに動^{うご}かすこと」を言^いいます。ですから、「意見^{いけん}や雰囲気^{ふんいき}に個人^{こじん}の意見^{いけん}や行動^{こうどう}は左右^{さゆう}されます」は「意見^{いけん}や雰囲気^{ふんいき}によって個人^{こじん}の意見^{いけん}や行動^{こうどう}は動^{うご}かされる（変わる）」ことです。

例：運命^{うんめい}を左右^{さゆう}するような大事件^{だいじけん}がおこった。

状況の力の例1－同調

- 同調とは？
 - － 集団のメンバーの意見や行動が社会的圧力となって、個人の意見や行動が影響を受ける(集団の意見に従う)
- Ash(1954)の線分実験
 - － 集団の中で正しい線の長さを答えるという課題
 - － 何人かのサクラが、わざと間違った答えを言う
 - － 1人で答えると間違えないような簡単な問題でも、正解ではない答を言うメンバーが増えると、その答に同調してしまう傾向が強くなった



1. 状況の力の例として最初に説明するのは「同調」という現象です。
 2. 皆さんも普段の生活の中で、自分の意見をついに人に合わせてしまった経験を持っているかとおもいます。このように同調とは、集団メンバーの意見や行動が社会的圧力となって、個人の意見や行動が影響を受けることを表します。言いかえると、集団の意見にしたがってしまうということです。
 3. 同調という現象を確かめた実験の一つに、Ash (1951) によるものがあります。
 4. この実験に参加した人は、集団の中で、正しい線の長さを答えるという課題を与えられました。例として、スライド上の線を見てください。最初に A の紙を見ます。次に B の紙を見て、A の紙に書いてあった線と同じ長さの線がどれかを当てるように言われます。この例では 2 番目の線が正解だというのはわかると思いますが、この実験で使われた課題は簡単なもので、一人で答えたときにはほとんど間違えない
1. First example of situational power is “conformity” which is a major topic of interest for social psychologists.
 2. There must be instances in your life when you conformed to the seemingly collective opinion of a group to which you belonged, perhaps without realizing it. Conformity means that one’s opinion and behavior are influenced and directed by social pressure created by social group members’ opinion and behavior. In other words social pressure somehow makes you follow the majority opinion.
 3. Ash (1954) conducted an experiment that depicted conformity.
 4. The participants in this experiment were shown two different slides. A figure is shown in here as an illustration of Ash’s experiment. In the experiment the participants were first shown Slide A which displayed the drawing of a single line on a white surface. Next they were shown Slide B which displayed, on the same surface, the drawings of three separate lines with

いものだということが^{かくにん}確認されています。

5. 実験では、その課題を8人がグループになって答えるという手続きをとりました。この8人のうち何人かは、あらかじめ決められた答えを言うように指示されていたサクラでした。つまり、周りの人が正解ではない答えを言うような状況が作り出されました。
6. この実験によると、周囲の人が間違った答えを言うような状況では、自分も同じように間違った答えを言うようになるという結果になりました。
7. このように、周りの意見につられて自分の意見を答えてしまうのは、集団との相互作用によるものです。

different lengths. The participants were asked to choose which of the three lines in Slide B had the same length as the single line on Slide A. If you look at the slide I prepared here you can clearly see that the second line in Slide B is the correct choice. An individual participant could easily see the right answer on her or his own.

5. In Ash's experiment, the participants were grouped in teams of eight. Some members were asked to secretly cooperate with the experimenter and to purposely give the wrong answer. Thus, an artificial situation was created to lead other participants to the wrong answer.
6. The experiment results showed that all the participants were more likely to make the wrong choice in a group in comparison to the scenario when they make a choice on their own, as an individual. That is, group membership pushed people towards the wrong answer.
7. This type of conformity results from the interaction between individuals in a social group situation.

日本語解説

文1. 「同調」

「同」は同じ、「調」は調子ですから、調子を合わせることで、つまり、他の人の意見に自分の意見を一致させることをさします。誰かの主張に対して、賛成する人を「同調者」といいます。また、周りの人と同じ行動を取りやすい傾向を「同調性」といい「同調性が高い人」のように使います。類似したことに、「協調」があります。こちらは、単に一方的に同じ意見にするのではなく、お互いに協力して解決していくことで、「国際協調」のように使います。

文2. 「つい」

「思わず」「意図しないで」の意味です。そうするつもりはなかったのに「つい忘れてしまった」や

「授業中、つい寝てしまった」のように使います。ここで言っている「自分の意見をつい人に合わせてしまった」も「合わせようと思って合わせたのではなく、気がつかないうちに合わせていた」という意味で使われています。

文2. 「言いかえると」

同じ意味のことを別の言葉で言うと、ということで「つまり」「すなわち」「要するに」「結局」などの仲間です。

文5. 「あらかじめ」

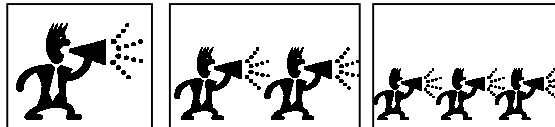
そうなる前から後のことを考えて、前もって、の意味で、「あらかじめ準備をしておく」のように使います。ここでは「あらかじめ決められた答えを言うように指示されていた」ですから、実験が始まる前に「このように答えてください」と言われていたことになります。

文7. 「・・・につられて」

思わず周りの意見や行動などに引きずられて、同じことをしてしまうことをいいます。たとえば「相手につられて笑いだした」経験はあるでしょう。前の文2の「つい」といっしょに使われることも多いです。文7の「周りの意見につられて自分の意見を答えてしまう」はほかの人が言った意見に思わず合わせて同じ意見を言ってしまう」ことですから、「つい、つられた」のでしょうね。

状況の力の例2－社会的手抜き

- 社会的手抜きとは？
 - － 集団の中で同じ作業をすると、一人でいるときよりも努力しなくなる
- Latanéら(1979)の実験
 - － 防音室の中で大声を出すという課題
 - － 一緒に作業する人の数が増えるほど、一人ひとりの努力量は小さくなった
- 社会的手抜きは、困っている人を助けられない原因の一つ
 - － キティ・ジェノヴィーズ事件



1. もう一つ、集団の力によって人の行動が変わる例を紹介しましょう。
 2. 集団の中で作業をしていると、中にはサボる人も出てきます。こうした現象を「社会的手抜き」と呼びます。
 3. Latanéら(1979)は実験によってこの社会的手抜きが起きることを確認しました。
 4. この実験の参加者は、防音室の中に案内されて、中で思い切り叫ぶように指示されます。
 5. 先ほどのAschによる実験と同じように、この実験でも比較対象となる条件が作られました。ある人は一人だけで叫んでくださいと言われ、別のある人は他の人と一緒に叫んでくださいと言われます。このように、防音室の中で一緒に叫ぶ人の数に変化がつけられました。
 6. このように、比較対象になる実験条件を作り出すことを「変数の操作」と言います。この実験では、一緒に作業する人の数を操作したことになります。
 7. 実験の結果、同時に叫ぶ人の人数が2人、3
1. Another example of situational power is “social loafing.”
 2. When carrying out work with the members of the group to which they belong, some individuals will not pull their weight and not work as hard as the other members, which is the phenomenon of social loafing.
 3. Latané et al. (1979) conducted an experiment to illustrate the phenomenon of social loafing.
 4. The participants of the experiment were taken to a soundproof room and told to shout out as loud as they can.
 5. Some were told to shout as a single individual, and some were told to shout in a group of two or three people. The experiment setting varied with numbers of group members.
 6. The procedure whereby the experimenter creates certain conditions for the experiment is called “control of variables.”
 7. The results showed that as the number of

- にん 人・・・6人と多くなるほど、ひとりあたりの
どりよくりょう 努力量、つまり声の大きさが小さくなること
たし が確かめられました。
8. 社会的^{しゃかい}手^て拔^ぬきは、困^{こま}っている人^{ひと}がいののに誰^{だれ}も
たす 助けないことを説明^{せつめい}する一つの理由^{りゆう}になります。
9. 有名な^{ゆうめい}事件^{じけん}に、キティ・ジェノヴィーズ^{じけん}事件^{じけん}と
よ 呼ばれるものがあります。1960年代^{ねんだい}のアメリカ^{あめりか}で起^おこった殺人^{さつじん}事件^{じけん}です。
10. 被害者^{ひがいしや}は若い^{わか}女^{じょ}性^{せい}で、夜^{よる}おそくに自宅^{じたく}近く^{ちか}に
かえ 帰ってきたときに変質者^{へんしつしや}に襲^{おそ}われます。キティ
ころ が殺されるまでの30分^{ふんかん}間に、38人^{にん}の目撃者^{もくげきしや}が
いたましたが、誰^{だれ}一人^{ひとり}助けようとはせず、警察^{けいさつ}に
つうほう 通報^もする者^{もの}もいませんでした。
11. 先^{さき}ほどの社会的^{しゃかい}手^て拔^ぬきの実験^{じっけん}でも明^{あき}らかにな
ったように、周囲^{しゅうい}に人^{ひと}が多くいるほど、自分^{じぶん}に
か 課せられた責任^{せきにん}を軽^{かる}く見積^みもるようになります。
す。したがって、「誰^{だれ}か他^たの人^{ひと}が助けるだろう」
というかんがえが浮^うかんでしまい、自分^{じぶん}の責任^{せきにん}を
ひく 低^みく見積^みもったために、助け^{たす}なくなってしまう
のです。
12. ここまでは状^{じょう}況^{きやう}の力^{ちから}の例^{れい}を見てきました。
では次^{つぎ}に、社会^{しゃかい}心理^{しんり}学^{がく}が対^{たい}象^{しやう}とする具^ぐ体^{たい}的^{てき}な
りよういき 領域^{りよういき}について見ていきましょう。
- people in a group increased, the shouting
volume of each participant decreased.
8. Social loafing is one explanation why some
individuals will not make an effort to help a
person who is in trouble.
9. The case of Kitty Genovese murder was a
famous incident of the 1950s' USA.
10. Kitty Genovese was a young woman who was
attacked by a sexual predator near her home
late at night. Thirty-eight people watched
her being murdered within a time span of
thirty minutes. None of them attempted to
help Kitty and nobody made an emergency
call to the police.
11. This phenomenon is explained by Latané's
experiment which made the conclusion that
the moral responsibility that an individual
may feel decreases in proportion to the
number of people that surrounds that
individual in a social situation. In cases such
as the murder of Kitty Genovese individuals
are quite capable of thinking that someone
else should or would help the victim and
therefore avoiding responsibility to help a
fellow human being.
12. We have looked at examples of situational
power so far. In the next part I will discuss a
number of social psychology topics.

日本語解説

文2. 「サボる」

「サボ」はフランス語の「サボタージュ (sabotage) : なまける」のことで「る」をつけて動詞にしたことばです。「仕事をサボる」「きのう授業をサボっちゃった」のように使います。

文 2. 「手抜き」

しなくてはいけない手続きの一部をはぶいてしまう、しないことを言います。たとえば「手抜き工事」といえば、本来決められた手順で、手数をかけてすべき工事なのに、一部していない部分があることで、後で事故などが起こって、問題になることがあります。「手抜き料理」は簡単に楽をして作る料理です。

文 4. 「思い切り」

できるかぎり十分に、という意味で、「思い切り叫ぶ」は最大限大きな声を出すことです。防音室ですから、外に聞こえることはありません。どのくらい大きな声が出たのか、測ったのでしょうか。

文 11. 「見積もる」

まえもって物事の全体を予想して、それにどのくらいかかるか費用、時間などを概算することから、「自分の責任を低く見積もった」は「全体から考えて自分の責任はそんなに多くないと低く予想した」ということになります。「見積もり（見積書）」は、ものを買うときに、先にいくらになるのか店などに計算をして出してもらい書類のことです。「明日行くつもりだ」の「つもり」もこの「みつもり」と同様、まえもって心の中で考えておくことですね。

社会心理学の対象

- 一般
 - 研究法, 歴史など
- 個人内過程
 - 自己概念, 感情, 動機, 対人認知, ステレオタイプ, 態度変容など
- 社会的相互作用・対人関係
 - 競争, 援助, 攻撃, 身近な対人関係, 対人ストレス, 被服行動など
- 集団・組織・産業
 - 社会的アイデンティティ, 社会的ジレンマ, 集団間関係, 産業など
- 集合現象
 - 流行, 電子ネットワーキング, マスコミュニケーション, 政治参加など
- 文化・社会問題
 - 比較文化, 異文化適応, QOL, 犯罪・非行, 学校内の問題など

1. 社会心理学では実に様々なテーマが扱われています。スライド上の図は、日本社会心理学学会が分類している「専門領域リスト」の一部です。
 2. 個人内過程とは、自己の認知や感情、態度などに焦点を当てています。社会的に問題になるような行動や良い行動など、特定の行動をしやすい人はどういう自己概念やパーソナリティを持っているか、といったことを明らかにすることを目指しています。
 3. 社会的相互作用・対人関係では、特定の関係や行動に焦点を当てています。友人関係の深まりや、恋人関係の発展と破綻など、皆さんにとってもなじみの深い対人関係を扱っています。対人関係には、人間関係の葛藤や衝突といったネガティブな側面と、人同士の助け合いのようなポジティブな側面があり、その両方が研究対象となります。
 4. 集合現象では、流行・うわさの広がりといった、集団内で見られる様々な現象を扱っています。
 5. コミュニケーションにも、様々な切り口があり
1. There are many research topics in the discipline of social psychology. A figure in this slide shows most of the contemporary research topics listed by Japanese Society of Social Psychology.
 2. The research in intrapersonal process focuses on one's cognition, emotion, and attitude. In this field, the main research aim is to reveal the relationship between self-concept and particular behavior patterns that range from antisocial to prosocial.
 3. Interpersonal relationships involve both negative aspects like interpersonal conflict and quarrel, and positive aspects like social support.
 4. Collective phenomenon means various phenomena that can be observed in a group of people such as the spread of fashion ideas and rumor mongering.
 5. There are various types of communication. It

ます。大きくは、新聞やテレビ、雑誌などを媒体としたマスコミュニケーションと、人同士の直接的なコミュニケーションとがあります。直接的なコミュニケーションの中にも、言語的な情報のやり取りもあれば、身ぶりや手振りを使ったノンバーバル・コミュニケーションもあります。

is roughly divided into two types. The first type includes mass communication through internet, newspaper, television, and magazines. The second is the interpersonal direct communication. Direct communication includes verbal interchanges of information and nonverbal communication through hand movements or body gestures.

6. では次に、具体的な研究テーマを 3 つほど紹介します。

6. In the following section, three examples of social psychological topic will be illustrated.

日本語解説

文 1. 「実に」

「ほんとうに」「うたがいのなく」の意味から「非常に」「まったく」の意味になり、ここではつぎの「さまざまな」を強調しています。「実にすばらしい」のように使います。

文 1. 「様々な」

「いろいろな」、「種種（種々）の」「多様な」などと言いかえられます。

文 2. 「目指している」

目標としていることで、ねらう。

例：頂上を目指して登る。

文 4. 「流行」

急にある現象が世間一般に広がること。はやること。

例：インフルエンザが流行している。

文 4. 「うわさ」

世間で根拠もなく言いふらす話。ある人の身の上や物事についてかげで話すこと。

例：君が結婚するってうわさを聞いたけど、ほんとうなの？

文 5. 「身ぶりや手振り」

体や手を動かして感情、意志などを表すことで、言葉以外でコミュニケーションをするには、このほか顔の表情などがあります。世界共通のものもありますが、文化によって「身振り」や「手振り」のあらわす意味が違うことも多いです。

自己評価に対する他者の影響

- 自己評価とは？－自己に対する肯定的・否定的な評価
- 他者の存在
 - － 自己評価は、身近な他者との比較によって決まってくる
 - － 何の交流もない他者の存在によっても、自己評価は影響される
- Morse & Gergen(1970)の実験
 - － 実験の最初と途中の二回、自己評価を測定
 - － 二回目の測定時には、ある他者と一緒の部屋になる
 - － だらしのない人と一緒にいると自己評価が上昇し、エリート風の人と一緒にいると自己評価は低下した

1. 最初に紹介するのは自己の評価に関するものです。
 2. 自己評価とは、たとえば「自分のおとなしい所が嫌い」「自分の几帳面な所が好き」のように、自分の持つ様々な側面について、好きか嫌いかなど、どのように評価するかを表します。自己評価は他者との比較によって決まってきます。そうした意味でも自己の認識は社会との相互作用によって決まってくるものです。
 3. 自己評価は身近な他者との比較だけではなく、全く交流の無い赤の他人との比較によっても影響を受けることが確認されています。それを確かめた実験の一つが Morse and Gergen (1970) によるものです。
 4. この実験では、自己評価を測るためのアンケートに、実験の最初と途中の二回、答えてもらいます。
 5. 実験の最初のときには自分一人でアンケートに答えてもらいますが、二回目の測定ときには、別の部屋に通されて、他者と一緒に答えてもらうという手続きをとりました。部屋で一緒
1. Self-evaluation is a major research topic in social psychology.
 2. Self-evaluation stands for positive or negative evaluation of oneself. It is often expressed in statements such as “I don’t like myself because I’m obedient” or “I love myself because I’m conscientious.” Self-evaluation depends on how one compares oneself with others. Therefore, the cognition of the self has a social aspect.
 3. One’s self-evaluation is influenced not only by the intimate others, but also by non-acquaint others. This is confirmed in an experiment by Morse and Gergen (1979).
 4. In the Morse and Gergen experiment, participants were asked to fill a self-evaluation sheet twice. First in the beginning of the experiment and then again in the middle.
 5. In the first phase, each participant evaluated oneself alone. In the second phase they did their self-evaluation with a non-acquaint person. There were two conditions as to with

にいた他者について、二つの条件を設けました。

6. 条件Aでは、エリート風の学生が一緒にいて、その人はきちんとした服装をしてテキパキと行動していました。条件Bでは、だらしのない格好をした人が一緒にいて、不器用な動きをするように演技をしています。一緒にいる人はサクラです。
7. サクラの条件によって、二回目の自己評価に変化が見られました。エリート風の学生と一緒に部屋になった人は、自己評価が下がりました。一方、だらしのない格好をした学生と一緒に部屋になった人は、一回目に測定した時と比べて、自己評価が上昇していました。
8. このことから、自己評価というのは揺らぎやすいもので、何の交流も無い他者からも影響を受けると言えます。

who the participants were.

6. In Condition A, there was a distinguished looking individual who was well-dressed and had a proper manner. In Condition B, there was an awkward person who was dressed shabbily.
7. In the results, the scores for self-evaluation were distinctly different. The score of self-evaluation increased in Condition A. For Condition B the situation was the opposite.
8. This experiment illustrates that self-evaluation is not stable and influenced by the presence of a non-acquaint person.

日本語解説

文1. 「几帳面」

人の性格などを表す時に使う表現で、「きちんとした」「物事の細かいところまで気をつける」ことです。「几帳面な性格」「几帳面な文字」「几帳面なノート」などと使います。いずれもきちんとしていて、まじめな様子が目にうかびます。反対は「だらしが無い」「ずぼら」などです。

文3. 「赤の他人」

まったくの他人のことで、親戚などではない人のことです。「赤」は名詞の上につけて「まったくの」「すっかり」「あきらかな」の意味を表します。たとえば、「赤はだか」は何も着ていない状態ですし、「赤恥をかいた」は「とっても恥ずかしい思いをした」とき使います。

文5. 「部屋に通されて」

「通す」は、ふつうは「通過させる」ことを指しますが、この「部屋に通す」は部屋の中に入れることを言います。これはもともと玄関を通して、奥のへやに導いたことから来ています。「部屋に案内されて」「部屋に導かれて」なども同じです。

文6. 「エリート風の学生」

「・・・風」というのは、実際はわからないが、外見がそのように見えるときに使います。「サラリ

一マン風^{ふう}「やくざ風^{ふう}」のように、いかにもそれらしい様子^{ようす}をしていることを表^{あらわ}します。人^{ひと}だけではなく「英国風インテリア^{えいこくふう}」とか「インド風カレー^{ふう}」のようにもののようすなどにも使^{つか}います。

文6. 「テキパキ」

ものごとを、早くきちん^{はやく}と処理^{しゅり}する様子^{ようす}をいいます。迅速^{じんそく}で手際^{てぎわ}が良いことで「仕事^{しごと}をテキパキとこなす」「テキパキした応対^{おうたい}は、見ていて気持ち^みがいい」のような使^{つか}い方をし^{かた}します。

文6. 「だらしない格好^{かつこう}」

「だらしない」は、前^{まえ}に「几帳面^{きちょうめん}」のところで、その反対^{はんたい}にあたる言葉^{ことば}の例^{れい}にだしました。きちんとしていない様子^{ようす}を示^{しめ}します。「格好^{かつこう}」は「恰好^{かつこう}」とも書^かき、ここでは「すがた」、「みなり」を表^{あらわ}します。つまり着^きているものや態度^{たいど}がきちんとしていない、くずれた様子^{ようす}なのですね。「格好^{かつこう}が悪い^{わる}」は、まとまった形^{かたち}ではない、外見^{がいけん}がわるいことで「単位^{たんい}を落^おとすのは、格好^{かつこう}が悪い^{わる}」のような使^{つか}い方^{かた}をし^{かた}します。

文6. 「不器用な動き^{ぶきよう うご}」

「器用^{きよう}」は、手先^{てさき}がよくきき細^{こま}かい仕事^{しごと}をうまく処理^{しゅり}できることで、「器用な人^{きよう ひと}」はものごとをじょうずにこなせる人^{ひと}を指^さします。反対^{はんたい}に「不器用な^{ぶきよう}」はものごとの処理^{しゅり}がうまくないことで、「不器用な動き^{ぶきよう うご}」は動き^{うご}がぎこちないことを指^さします。

ストレスへの対処

- ストレスとは？～Lazarus & Folkman (1984)によるストレスモデル
 - ストレスを認識し、それに対する対処を考え、実行するまでの一連のプロセス
- 対人ストレス～橋本(1997)による分類
 - 相手との衝突(対人葛藤)
 - 気まずさ(対人過失)
 - 気疲れ(対人摩耗)
- 対人ストレスへの対処～加藤(2000)による分類
 - ポジティブ関係コーピング
 - ネガティブ関係コーピング
 - 解決先送りコーピング

1. もう一つの社会心理学の研究例として、ストレスに関する研究を紹介します。
 2. Lazarus and Folkman (1984) は、ストレスというものについて、ストレスを認識し、それに対する対処を考え、実行するまでの一連のプロセスであると主張しました。その後の研究で、ストレスに対する認識も対処方法も、精神的健康を左右することが示されています。
 3. ストレスと感ずる出来事は人によって様々ですが、どの年代でも、人間関係に対するストレスは主要なストレスの原因の一つです。
 4. 橋本(1997) は、対人ストレスはおおよそ3種類に分けられることを統計的な手法を使って明らかにしました。3つのストレスとは、相手との衝突を表す「対人葛藤」、相手に迷惑をかけたりして気まずさを覚える「対人過失」、気を使って疲れてしまうという「対人磨耗」を表します。いずれのストレス源も、精神的健康を低めてしまう傾向が確認されました。
 5. Lazarus and Folkman (1984) も主張しているように、ストレスの原因だけではなくて、ス
1. The second topic of social psychology topic I want to discuss is the aspects of stress that people experience.
 2. Lazarus and Folkman (1984) stated that stress is a process of recognizing stress, thinking of how you cope with the stress, and deciding how to act. Further research has been revealing that each step of this process is related to mental health.
 3. Although what is stressful differs from person to person, interpersonal relationships are a major source of stress among all age groups.
 4. Hashimoto (1997) revealed that interpersonal stressors could be divided into three types in large; (1) interpersonal conflict, which is an exposure to others' hustle attitude or behavior, (2) interpersonal inferiority complex, which means making others discomfort due to one's mistake or passivity and (3) interpersonal dislocation, which is a mental fatigue.
 5. He further revealed that as one held each type of stressors his/her mental health

トレスにどのように立ち向かっていくか、その対処方法も考えていかねばなりません。対処方法については加藤（2000）が整理をしています。

6. 加藤（2000）では、橋本と同様の統計的手続きによって、対処（コーピング）の方法はポジティブ関係コーピング、ネガティブ関係コーピング、解決先送りコーピングの3つに分かれました。ポジティブ関係コーピングとは、相手のことをよく知ろうとするなど、相手との関係を改善するために、積極的に働きかける対処方法です。ネガティブ関係コーピングとは、相手と関わらないようにするなど、相手との関係を解消・放棄する対処方法です。解決先送りコーピングとは、気にしない、こだわらないといったように、特に行動を起こすことはなく、今の状態を受け入れる対処方法になります。
7. これらのうち、ポジティブ関係コーピングと解決先送りコーピングは精神的健康にとって良く働くことが、ネガティブ関係コーピングは悪く働くことが調査の結果から明らかにされています。
8. ストレスの研究は日常生活の中で我々がより健康に生きるための知恵を提供してくれます。

decreased.

6. As Lazarus and Folkman (1984) insisted, it is important to think of not only the types of stressors but also how you cope with the stress itself. As a way of coping, Kato (2000) categorized three types of strategies, by using statistical procedures that are similar to those utilized by Hashimoto (1997). Coping strategies are; (1) positive relationship-oriented strategies to have an intention to know more about a target person, (2) negative relationship-oriented strategies to avoid being involved with a target person, and (3) the postponed-solution coping method in order to stop worrying and accept the current situation.
7. Kato (2000) revealed that positive relationship-oriented strategies and postponed-solution coping had positive effect on maintaining mental health while negative relationship-oriented strategies had a negative effect.
8. Research on stress and stress avoidance provides us with the necessary knowledge to lead a healthy life.

日本語解説

文4. 「対人ストレス」

「対」は「…に対して」の「対」ですから、すぐにわかるとおり「対人」は「人に対する…」です。同様「対物」はものに対するですから「対物事故」はものにぶつかった事故のことです。「対前年度比」は前年度に比べての比率を表します。「対処」「対応」「対策」なども、何かに対して応えることです。「対」が語と語の間にあると、向かい合う、相手とするという意味になりますから「Aグループ対Bグループ」のように対比して使います。

文4. 「ストレス源」

「源」は「物事の発するもと」という意味で、「みなもと」とも読みます。「水源」は泉など水が出てくるもとを意味し、何かが起こるはじめ、原因などをさします。ですから、「ストレス源」はストレスの原因となる事柄などを意味します。「情報源」「資源」など、情報の出どころ、何かを作る時のもとになる物質という意味になります。

文4. 「低めてしまう傾向」

低くしてしまう傾向の事です。「高い」は「高める」です。

文5. 「整理をする」

乱れた状態のものを、きちんと秩序正しくすることで、「部屋の整理」「交通整理」のような物理的な整理と「心の整理」「情報の整理」のように抽象的な意味でも使います。

文6. 「解決先送り」

「解決を先送りする」とは、「その場で解決しないで、将来に延ばすこと」で「先」は進んでいく前の方ですから、将来の事です。

文8. 「知恵」

ここで使われている「生きる知恵」のように「何かに適切に対応・処理していく能力」のことで、似ていることばに「知能」があります。

社会的アイデンティティ

- 社会的アイデンティティとは？
 - 自分がある集団に所属しているという知識から生じる自己概念
- 内集団ひいき
 - 内集団の利益を優先する
 - 内集団の方が優れていると思いたがる
- 内集団ひいきが起こるのはなぜ？
 - 内集団を肯定的に評価することが、自分自身をも肯定的に評価することにつながるため

1. 研究テーマの例として、最後に社会的アイデンティティを取り上げます。
 2. 自己の認識というのは、自分がどういう性格をしているかという個人的な側面だけではなく、どういう集団の一員かという所属集団により規定される部分もあります。このように、自分がある集団に所属しているという知識から生じる自己概念のことを「社会的アイデンティティ」と呼びます。
 3. この社会的アイデンティティに関連する判断の特徴として、「内集団ひいき」と呼ばれる現象があります。人は、自分の所属している集団とそれ以外の集団とを比較し、自分の所属している集団の方を優位に位置づけようとすることを表します。自分の所属している集団のことを内集団、それ以外の集団のことを外集団と呼びますが、内集団の方が外集団よりも優れていると思ったり、内集団の利益を優先しようとするわけです。
 4. 日本では授業中のおしゃべりが問題になっていますが、なぜ授業中におしゃべりをする
1. My last example of the major social psychology research topic is “social identity.”
 2. Cognition of self does not solely consist of one’s personality, but also includes the images of social groups to which one belongs. Social identity is a part of self-cognition.
 3. In-group favoritism is a phenomenon that is deeply connected with social identity. People tend to have a bias when comparing in-groups (themselves) and out-groups (others). They also tend to distribute advantages to their fellow in-group members. Members of in-groups are seen as being superior to those of out-groups irrespective of whether this conviction has any validity. The truth value of this conviction is determined by a perspective that is in turn determined by group membership.
 4. Private conversations between individuals that disturb the conduct of lecturers in

のかという理由^{りゆう}の一つ^{ひと}に、この内集団^{ないしゅうだん}ひいきが働^{はたら}いていると考^{かんが}えられます。なぜ、こうした内集団^{ないしゅうだん}ひいきが起^おこるかという^と、内集団^{ないしゅうだん}を肯定的^{こうていてき}に評価^{ひょうか}することが、自分自身^{じぶん}をも肯定的^{こうていてき}に評価^{ひょうか}することにつながるためと考^{かんが}えられています。人^{ひと}にはそもそも「自分を肯定的^{こうていてき}に評価^{ひょうか}したい」という心理^{しんり}が備^{そな}わっていて、そのために内集団^{ないしゅうだん}ひいきが起^おこるのです。

schools and universities are a major social problem Japanese education system. This problem could be explained by the concept of in-group favoritism. In-group favoritism occurs because it contributes to the heightening or maintenance of one's self-evaluation. The drive to evaluate oneself in a positive way often results in in-group favoritism. Thus, such students attempt to prove the assumed superiority of their in-group by having fun in class rather than earnestly listening to the lecture which is what the rest of the students, that is the out-group members, do.

日本語解説

文3：「ひいき」

気^きに入^いった人^{ひと}だけを応援^{おうえん}したり、その人^{ひと}だけを助^{たす}けたりすることで、「先生^{せんせい}にひいきにされる」というのは、先生^{せんせい}に特別^{とくべつ}扱^{あつか}いされてかわいがられることです。「ひいきの店^{みせ}」といえ、特別^{とくべつ}好き^すきでいつも行^いっている店^{みせ}のことです。

文4：「おしゃべり」

特別^{とくべつ}な目的^{もくてき}をもたず話^{はな}すこと、雑談^{ざつだん}することで「駅^{えき}で友達^{ともだち}と久^{ひさ}しぶりに会^あって、つい1時間^{じかん}もおしゃべりしてしまっ

文4：「肯定的」

認^{みと}めること、良^よいと判断^{はんだん}することです。反対^{はんたい}は「否定的^{ひていてき}」です。

まとめ

- 他者の行動はその人のパーソナリティによるものと思ってしまうがち



- 実際には、多くの状況的な影響を受けている
- 何が影響しているかは、データを取ることで検証することができる
- 社会心理学の考え方、研究方法、研究結果は、日常の身近な人間関係をはじめ、医療、福祉、企業、学校などの現場など、至る所に応用が可能

1. 以上、自己評価、ストレスへの対処、社会的アイデンティティという3つの研究テーマについて見てきました。どの研究テーマでも、人の行動は状況に左右されることを明らかにしており、また皆さんにとって身近なテーマを扱っていることが伝わったかと思います。
 2. 手抜きをしている他者や、私語のような迷惑行為をしている他者を見ると、ついその人の性格に問題があると思ってしまうがちです。しかし実際には、本人のパーソナリティとは別の、状況の影響を強く受けているのです。
 3. 冒頭でも紹介したように、具体的にどのような要因が影響しているかということを、社会心理学ではデータをとることで明らかにします。これを「実証主義」と呼びます。
 4. こうした社会心理学の考えかた、研究方法、そして研究結果は、皆さんの生活を向上させるのに役立つでしょう。またこれらは、医療、福祉、企業、学校などの現場など、至る所に応用していくことができます。
1. We have looked at several major research topics in social psychology. In daily life you may see events and social phenomenon which are in the domain of social psychology research. The topic of situational power is especially relevant to events in your daily life.
 2. When you see people who go slow on the job or interrupt a lecture by having a private conversation with their friends in the classroom, you may put the blame on their personality. However, the actual cause is partly driven by situational power.
 3. As discussed earlier, social psychologists collect data that support the construction of a theory. This is called “positivism.”
 4. The way of thinking, data collection method, and the theoretical frameworks that social psychology provides are useful in daily life. The body of social psychology research findings is utilized in actual life settings such as welfare work, business, commerce and education.

キーワード

- ・ 同調 (conformity)
- ・ 社会的手抜き (social loafing)
- ・ 自己評価 (self evaluation)
- ・ ストレス対処 (stress coping)
- ・ 対人ストレス (interpersonal stress)
- ・ 社会的アイデンティティ (social identity)
- ・ 内集団ひいき (In-group favoritism)
- ・ 実証主義 (positivism)

関連用語

- ・ 変数の操作 (manipulation of variables)
- ・ 条件の統制 (control of conditions)
- ・ 社会的比較 (social comparison)

日本語解説

文2. 「私語」

授業中などに隣や前後の人と小さい声で話した経験はありませんか。このような小さい声でこっそりするおしゃべりのことを「私語」といいます。はっきりみんなに向けて発言する「公言」に対する語です。

文4. 「到る所」

「至る」は行き着く、到着 することで、行って着いたところ、つまり「行くところどこでも」の意味です。「到る所」に案内人がいてくれて、助かった」とか「到る所」でおいしいものを売っていた」とか使います。

【引用・参考文献】

- Ash, S. E. (1951). Effects of group pressure upon the modification and distortion of judgments. In H. Guetzkow (Ed.), *Groups, Leadership and Men*. Carnegie Press.
- 橋本剛 (1997). 大学生における対人ストレスイベント分類の試み 社会心理学研究, 13, 64-75.
- 加藤司 (2000). 大学生用対人ストレスコーピング尺度の作成 教育心理学研究, 48, 225-234.
- Latané, B., Williams, K., & Harkins, S. (1979). Many hands make light the work: The causes and consequences of social loafing. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 822-832.
- Lazarus, R. S., & Folkman, S. (1984). *Stress, Appraisal, and Coping*. New York: Springer Publishing Company.
- Morse, S. J., & Gergen, K. J. (1970). Social comparison, self-consistency, and the concept of self. *Journal of Personality and Social Psychology*, 16, 148-156.